

希望の種
ふくおか
NPOファイル

⑮

フィギュアスケートの浅田真央選手が赤いジャンパー姿で市民と一緒に宗像市の市街地を走りました。きっかけは、社会的な課題を自由な発想で解決する団体を応援する住友生命のCSR（企業の社会的責任）活動「YOUNG JAPAN ACTION」です。2014年度の大賞に選ばれた同市のNPO法人「改革プロジェクト」を、「YOUNG JAPAN ACTION」のプロジェクトリーダーを務める浅田選手が訪問。改革プロジェクトのメンバーと一緒に「パトラン」に

改革プロジェクト

事務所＝宗像市▽電話番号＝090(2398)7390
メールアドレス＝kaikakuprj@gmail.com



宗像市の市街地を走る「パトラン」の参加者

パトラン 全国に拡大

参加したのです。

パトランはパトロールとランニングを組み合わせた造語。仲間と一緒に夜間の市街地などを走り、地域の防犯に役立てるのが狙いです。2013年に宗像から始まったパトランは全国に広まり、今月9日現在、18都府県で約40

0人の市民が自主的なボランティアとして参画しています。活動の中心を担うのは改革プロジェクトの代表理事、立花祐平さん(30)です。大学を卒業後、東京と大阪で営業の仕事をしていましたが、会社を看板を背負って働くスタイ

に危険が潜んでいる」と夜道のパトロールを開始。しかし、1年もたつと参加者も徐々に減ってしまったそうです。何とかしたいと悩む中で立花さんは「走るのは何も競技場や公園のトラックだけに限らなくてもいい」「歩いているパトロールには楽しみが見い

一方、町内会やPTAなどが担ってきた地域の防犯パトロールは参加者の高齢化が進んでいます。地域コミュニティのつながりが弱体化していることも、若いメンバーの参画が多いパトランへの期待が高まっている背景かもしれません。

パトランには楽しみが見いだしづらいが、健康や趣味でランニングしている人はたくさんいる」と気がきます。それぞれは当たり前のように思える二つの視点がつながり、パトランのアイデアが生まれ、プロジェクトを立ち上げたのです。

当初はごみ拾いをしていましたが、仲間の1人が夜道で不審者の被害に遭ったことをきっかけに、「身近なところ

改革プロジェクトは今年1月から学校と連携して下校中の子どもを守る夕方のパトランも始めました。自身の健康だけでなく、仲間ができ、走りながら笑顔であいさつすることで地域コミュニティーのつながりも生まれる。関わる人々みんなが何かを得て、楽しみながら続けられるボランティア活動として、パトランはまだまだ広がりを求めています。

（仮認定NPO法人「アカツキ」代表理事・永田賢介）

原則毎週月曜掲載